

平成19年度島根県公立高等学校入学者選抜学力検査結果の概要について

【全般】

問題作成にあたっては、中学校学習指導要領に沿い、中学校で学習した基礎的・基本的事項を中心に内容を精選して日頃の学習で積み上げられた基礎学力が検査できるように、また、単に知識量を問うのみでない問題作成に配慮した。

学力検査の平均点と得点分布状況は別紙のとおりである。5教科の平均点は298.9点で前年度と比べ9.7点上昇している。また、各教科の平均点については、数学の平均点が57.9点（昨年度54.4点）と昨年度に比して3.5点上昇した点と、社会の平均点が62.7点（昨年度59.8点）と昨年度に比して2.9点上昇した点が目立った。しかし、近年の平均点や得点分布と比較したとき、所期の目的はほぼ達成したといえる。

【国語】

文章を読んで大筋を理解する力及び話の内容や展開を聞き取る力については、中学校における学習の成果がみられ、概ね良好な状況であった。また、自分の考えを表現しようとする意欲もうかがえる。しかし、分量のある論理的な文章を読みこなす力、問題の意味を正しく掴んで的確にまとめる力及び語彙力には個人差がみられた。今後は特に、正確な表記や書き言葉と話し言葉の区別などの基本をしっかりと身に付け、条件に応じて適切に表現する能力を高めていく学習が望まれる。

【社会】

各問題とも基本的な事項については概ね理解されているととらえることができるが、分野別にみると、地理的分野に比べて歴史的分野及び公民的分野の正答率がやや低かった。全体的に、基本的な知識をもとにグラフ・資料・写真等から判断する力は身に付いているが、文章記述で解答する問題について無答・誤答が多く、諸事象を正しく理解し表現する力を伸ばすことが課題であると考えられる。また、現代社会に関する問題の正答率が低く、社会の情勢や課題への関心を高めることが望まれる。

【数学】

数量や図形についての基礎的・基本的な知識・技能は概ね定着している。しかしながら、文章を読み取る力や多面的にものを見る力、論理的に考える力については、個人差がみられた。今後は、これらの力を一層伸ばすとともに、自ら調べ判断する力や、粘り強く考え続け考えたことを相手に分かるように説明する力の育成を図ることが望まれる。

【理科】

単純な語句で解答する問題や、平易な選択問題を集めた第1問題の正答率は77.4%に及んだ。このことから、各領域にわたり基礎的・基本的な事項は概ね理解されていたと思われる。しかし、科学的な思考力を問う問題や、実践的な観察・実験の手法を問う問題、作図を要する問題などでは正答率が低く、4.6%～27.3%となった。これらの点から、語句の理解や観察・実験に関する基礎的な理解は深まっているが、基礎的・基本的な事項の正確な理解に基づく科学的考察力や体験的な観察・実験に関する技能を育成する学習が望まれる。

【英語】

聞き取る英文の量、速さともやや程度の高いリスニング問題であったが、平成18年度入試と同様に、正答率は高く、英文を聞いてその内容や大切な部分を聞き取る力は定着している。英語で表現する力については十分とはいえない状況が続いているが、正答率が上昇したことから、中学校での指導の成果があがりつつあるといえる。また、分量のある英文を読んで概要を把握する力は概ね良好な状況であったが、今後は細部について正確に読み取る力を育成することが望まれる。